

群 教 七	F08 - 01
	平28.261集
	生徒指導

自主的に集団生活に取り組む生徒の育成

— ビーイングを活用した学級活動を通して —

特別研修員 早川 健司

I 研究テーマ設定の理由

生徒指導提要では、「自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、よりよい人間関係を主体的に形成していこうとする人間関係づくりとこれを基盤とした豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育環境を形成すること」が生徒指導の充実の基盤であり、目標の一つであると述べられている。

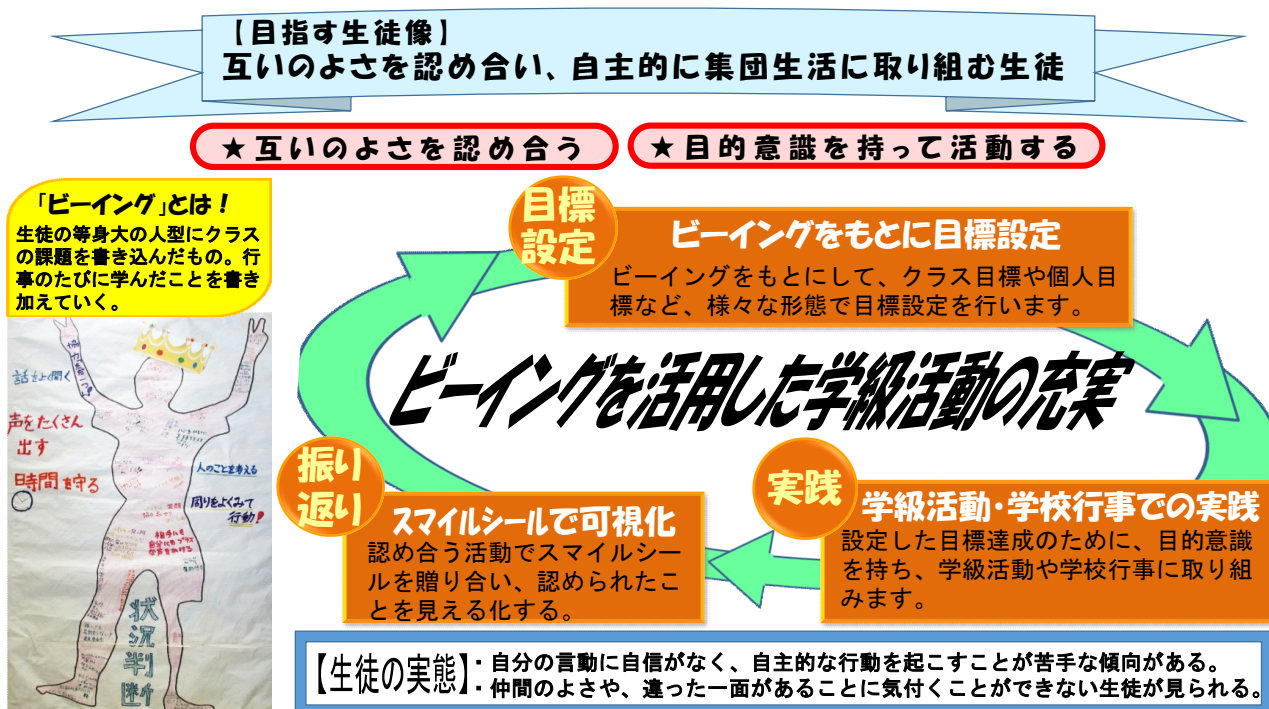
中学校学習指導要領では、総則において指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として「生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること」が定められている。

本校の生徒は四つの小学校から集まり、1学年133名を4クラスで編成している。各小学校は小規模校であることから、6年間同じクラスで過ごした生徒が多い。そのため、既成の人間関係にとらわれ自主的に活動できなかつたり、他者の違った一面を再発見したりすることができない生徒が多く見られる。また、6月に行ったQ-Uでは「友人から認められていると思う」の質問に対し、否定的な解答をした生徒が21.2%と、自分が他者から認められていないと感じている生徒が多く見られた。

これらのことから、生徒がより良い人間関係を形成し、自主的に集団生活に取り組むためには、互いのよさを認め合い、自己を活かしていくことが必要であると考え。本研究では、学級行事や学校行事などの様々な場面で、活動に対する目標をしっかりと持つとともに、互いのよさを認め合う活動に取り組むことで、生徒が自主的に集団生活を行えると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が自主的に活動するためには、目標設定が必要である。目標達成に向けて仲間と協力し、活動していく中で、改めて自他のよさに気づき、自主的に活動することができる。ビーイングは、生徒がクラスを象徴するポーズをとり、それを描いた等身大の人型で、その中に生徒一人一人が考えたクラスの目標を書き込んだものである(図1)。ビーイングに、学級活動や学校行事を踏まえて、クラスの新たな目標を書き加えていくことを通して、集団生活への目的意識向上を図り、生徒の自主的な取組につながるようにした(図2)。



図1 象徴的なポーズ 図2 ビーイング

本研究では、このビーイングをもとに様々な活動の場面で、クラス、グループ、個人で目標設定を行い、生徒が目的意識を持って活動に取り組めるようにした。また、生徒の自主的な態度を育成するために、振り返りの活動において生徒同士が互いのよさを認め合う活動も取り入れた。

手立て1 ビーイングを活用した目標設定の工夫

- ①ビーイングを基にクラス目標を決定する
 - ・クラス目標を設定し、集団として目的意識を持ち活動できるようにする。
- ②クラス目標を達成するために自分にできることを決定する
 - ・自分にできることを個人目標として決定し、自主的に活動しようという気持ちを高める。

手立て2 自主的な取組を増やすための振り返りの工夫

- ①スマイルシールを用いた認め合い活動
 - ・認め合い活動の際にスマイルシールを互いに贈り合うことで、認めたこと・認められたことを実感しやすくする。
- ②学んだことを振り返り、ビーイングに書き加える
 - ・目標達成のために頑張ったことを振り返り、反省点や改善点をもとにビーイングに新たな目標を書き加える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 体育祭や合唱コンクールなど、様々な場面でビーイングに新たな目標を書き加えたことで、生徒一人一人が互いを理解して取り組むようになり、生徒の目的意識が向上した。合唱コンクールでは、改善点を自分たちで話し合い、声を掛け合いながら練習するなどの自主的な行動が見られた。
- 認め合いの活動としてスマイルシールを贈り合い、認めたこと・認められたことを可視化したことで、生徒は認められたことを実感しやすくなった。6月に行ったQ-Uでは、「友人から認められていると思う」の項目で肯定的な回答が78.8%であったが、11月に実施した結果では91.5%に増加した。また、「クラスの中で存在感があると思う」の項目では、84.8%から86.9%へ肯定的な回答が増加した。

2 課題

- 学級活動や学校行事において、生徒が取り組んだ具体的な言動などを共有できる振り返り活動を工夫する必要がある。互いのよさを認め合える言動からクラスの新たな目標を話し合い、生徒全員が共通理解した内容をビーイングに書き加えることで、更なる目的意識の向上を図りたい。
- スマイルシートを用いた認め合い活動では、シールを贈り合うこと自体が目的になってしまう傾向があった。どのようなことを頑張ったのか、相手に言葉として明確に伝えてからシールを贈るなど、互いのよさにより目が向くような手立てを工夫していきたい。

実践例

1 題材名 「合唱コンクールを成功させるために、自分にできることを考えよう」(第1学年・2学期)

2 本題材について

本題材は、「合唱コンクールに向けて一人一人が目的意識を持ち、自主的に活動に取り組む」ことをねらいとして設定した。

生徒が自主的に集団生活に取り組むためには、互いのよさを認め合い、生徒一人一人が自己を積極的に活かしていくことが必要である。生徒が自主的に活動するためには、何を目標として活動するかを示した目標が必要である。目標達成に向けて仲間と協力し、活動していく中で互いのよさに気づき、自主的に活動することができる。

本研究では、生徒が活動の目標を設定する際に「ビーイング」を使用している。「こんなクラスにしたい」と象徴するポーズを描いたビーイングに、生徒一人一人が考えたクラスの目標となる言葉を積極的に書き込んだ。清掃や係活動などの学級活動、林間学校や体育祭などの学校行事を通して、クラスの新たな目標を書き加え、生徒は互いのよさを認め合い、クラスとしての集団生活に対する目的意識を高めてきた。本題材の合唱コンクールは、クラス単位で取り組む今年度最後の学校行事である。合唱コンクールに向けておよそ1ヶ月間の練習を行うため、その間、同じ曲を歌い続ける練習に飽きてしまったり、熱心に取り組むことができなかつたりする生徒が多い。そのため、これまでの学校行事よりも一層、生徒一人一人が活動に対して自主的に取り組むための目標設定が重要である。特に、合唱ではパートごとにグループで練習をする機会が多くあるため、クラス全体の取組だけでなく、各パートでの自主的な取組も重要な要因の一つとなる。クラス全体の目標だけでなく、パート目標、個人目標も設定することで、生徒が自主的に練習に取り組むことができると考える。そこで、本実践ではこれまでの学級活動や学校行事から書き加えられたビーイングを基に合唱コンクールに向けて、新たな目標をクラス、グループ、個人でしっかりと考え、自ら進んで取り組むことを重視した。生徒の自主的な態度を育成するために、振り返りの時間を重視し、生徒が互いのよさを認め合う活動を積極的に取り入れた。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	合唱練習に自主的に取り組むとともに、自他のよさを認め合うことができる。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	学級や学校の一員として自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるより良い生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。
	集団活動や生活に ついての知識・理解	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。
時間	主な内容	主な学習活動
事前の活動	問題の発見 問題の意識化	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールの意義や、それぞれの役割についての確認を行う。 ビーイングを基に、合唱コンクールに向けたクラス目標を考える。
本時の活動	出し合う 比べ合う まとめる	<ul style="list-style-type: none"> クラスの目標を達成するために、自分にできることを考える。 自分たちの目標を意識しながらパート練習に取り組む。 互いのよさを認め合い、スマイルシールを贈り合う。
事後の活動	実践 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 課題について話し合い、合唱の全体練習に取り組む。 全体練習を振り返り、改善点について話し合い、新たな目標をビーイングに書き込む。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、合唱コンクールの本格的な練習が始まる1ヶ月前に行った学級活動である。合唱ではクラス全員で行う練習の他に、パートでの練習、個人での練習など、様々な形態で活動する場面がある。各場面で生徒が明確な目的意識を持てるよう、ビーイングを基にクラス、各パート、個人など、様々な形態で目標設定を行った。設定した目標を達成できるよう、各自で目標を意識してパート練習を行った。振り返りでは、パート練習の際に撮影したビデオ映像を見ながら、互いのよさを認め合い、スマイルシールを贈り合う活動を行った。生徒自らが目標を設定し、その達成に向けて目的意識を持った実践、振り返りにおける認め合い、といった一連の活動から生徒の自主的な態度を育成することができると考え、以下の手立てを基に実践した。

手立て1 ビーイングを活用した目標設定の工夫

- ①クラス目標を達成するために自分にできることを各自が考え、個人目標を設定する。
- ②パートごとの目標を設定し、パート練習に取り組む。
- ③各個人、各パートの目標を達成することが、クラス目標の達成につながることを生徒が理解し、自主的な活動ができるようにワークシートの工夫を行う。

手立て2 自主的な取組を増やすための振り返りの工夫

- ①スマイルシールを互いに贈り合うことで、認められたこと・認められたことを実感しやすくする。
- ②スマイルシートとスマイルシールを教室に配置し、いつでも互いのよさを確認できるようにする。

4 授業の実際

(1) 手立て1 ビーイングを活用した目標設定の工夫

これまでの学級活動や学校行事を通して、生徒が学んだことや体験したことから新たな目標を書き加えたビーイングを基に、合唱コンクールに向けたクラス目標を決定した。次に、クラス目標を達成するために、個人ではどのような取組をしていくか、クラスのために自分ができようことを考え、個人目標を決定した。その後、ソプラノ、アルト、男声の各パートに分かれ、個人の目標を基に、パートの目標を決めた。それぞれの目標は、一枚のワークシート(図3)にまとめ、ビーイングを基に決定した目標であることを全体で共通理解した。一枚のワークシートにまとめたことによって、生徒は各自の取組がクラス目標の達成につながることを確認した。

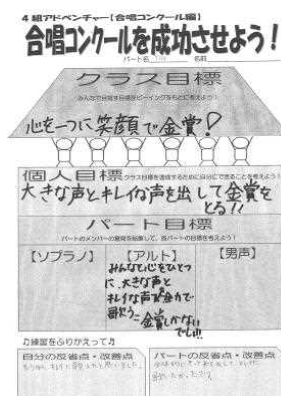


図3 ワークシート

(2) 手立て2 自主的な取組を増やすための振り返りの工夫

個人目標は生徒の自主的な取組につながることから、図4のようにスマイルシートに書き込んだ。スマイルシートに個人目標を記入する欄とスマイルシールを貼る欄を設けたので、誰がどのような目標で練習に取り組んでいるのか、互いの目標や取組が分かりやすくなった。

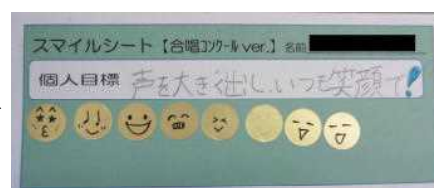


図4 スマイルシートとスマイルシール

本時の後半部分で、パート練習の様子を撮影したビデオを視聴し、互いのよさを認め合う活動を行った。互いのよさを認められたこと、認められたことが実感できるように、スマイルシールを贈り合う活動を行った。授業のまとめでは、各パート毎にパート練習の反省点、個人の反省点について話し合いを行い、次回の練習に向けて課題を明確にして授業を終えた。スマイルシートは、合唱コンクールまで学級に掲示して、本実践後も互いのよさを認め合う活動を継続した(図5)。



図5 掲示したスマイルシート

5 考察

(1) ビーイングを活用した目標設定の工夫

クラス目標の決定、それに伴う個人目標やパート目標の設定など、多様な形態で目標設定を行ったことで、場面ごとの目的を明確にすることができた。パート練習では、クラス目標を達成するためにはどんなことに気を付けなければいけないかを相談したり、互いに声を掛け合いながら練習したりと、生徒が自主的に活動する姿が多く見られた（図6）。生徒のワークシートには、それぞれの目標を達成しようと、自主的に活動する友人の行動について、多くの記述が見られた。



図6 話し合いの様子

生徒のワークシートより

- ・合唱がより良いものになるように、どうすればいいかを一生懸命考えていた。
- ・ソプラノのために色々な意見を言ってまとめてくれた。
- ・パートリーダーとして気を付けた方がいいところをみんなに言ってくれた。



図7 合唱コンクールでの生徒の板書

本実践後、合唱コンクールを成功させようという意識がクラス全体に広がり、練習の課題を克服する方法を活発に話し合う場面が見られた。教師の指示がなくても生徒が中心となり、課題を黒板に板書して話し合いを行っていた（図7）。集団活動に対して、自主的に取り組む生徒の一面を見ることができた場面であった。

生徒の自主的な活動を増やしていくためには、どのような言動が目標達成のために有効であるかを、クラス全体で共有する場面が必要であった。合唱練習の後に、どういった行動が目標に沿った活動であるかなど、生徒の行動を基に話し合うことで目標が明確になり自主的な活動につながる。話し合いを行う際は司会の輪番制を取り入れるなど、生徒が自主的に取り組める活動を工夫したい。

また、学級活動や学校行事の内容によっては、学年全体に広げることにより生徒の自主的な活動につながると考える。合唱コンクールなどのクラス対抗の学校行事は、他のクラスのよさを吸収し、互いに競い合いながら、クラスや学年としての自主的な活動となる。学級活動を中心に生徒の自主性を育成する活動を実施してきたが、学年全体で行うことで更なる効果が期待できるので、ビーイングを用いた実践として工夫したい。

(2) 自主的な取組を増やすための振り返りの工夫

振り返りでの認め合い活動において、スマイルシールを贈り合ったことは、生徒が互いのよさを実感する上で効果的であった。シールをもらった生徒、シールを贈った生徒の両者が笑顔で互いのよさを認め合っていた（図8）。仲間からスマイルシールを受け取ったことで、自分の取組が認められたことが可視化され、次回への活動意欲にもつながった。本実践後もスマイルシートを教室に掲示したところ、休み時間などを利用してシールを貼る生徒が多く見られた。スマイルシールを通して、仲間のよさに目を向けようとする生徒が多くなった。



図8 振り返りの様子

スマイルシールによって、互いのよさを認め合うことはできたが、相手がどんな気持ちで努力していたのか、行動だけでなく、目標の達成に向けて一人一人が取り組んでいる気持ちを重視する必要がある。今後は、相手の行動と気持ちに目を向け、互いのよさを認め合う活動が継続できるようにスマイルシートの活用を工夫したい。